

かがや

福島県に耀く人と未来と文化スポーツのために

福島の高校生の活躍 ー第41回全国高等学校総合文化祭ー 2

東邦銀行 教育・文化財団の活動

当財団の奨学金事業について 2

助成交付先対象団体と活動（平成29年度下期文化・スポーツ活動ほか） 3

原郷のこけし群 西田記念館の展示（報告） 4

かがやくFLASH 平成28・29年度助成団体の活動から 6

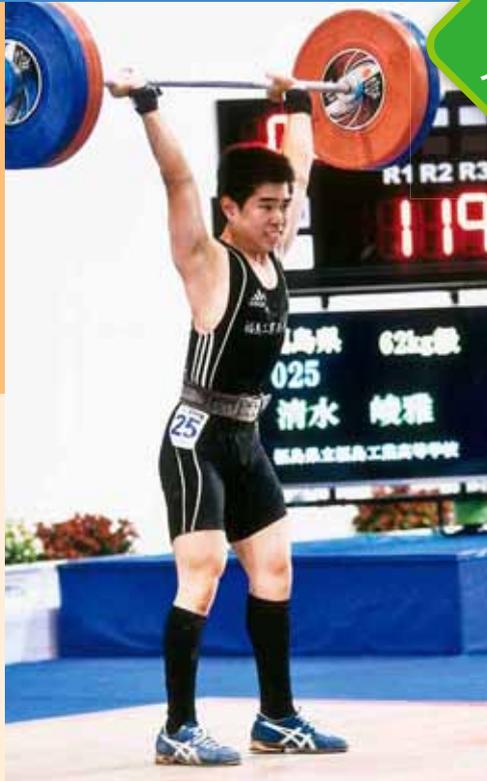
福島木彫の会 / 中村若連（蔵島神社「つつこ引き祭り」） /
相馬市インディアカ協会 / 会津学鳳中学校・高等学校 美術部

SPOTLIGHT TALK 「学校法人松韻学園 福島高等学校 相撲部」 8

2017年 OCTOBER No.11

平成29年
南東北
インターハイ

ウエイトリフティング



62キロ級トータル
清水選手（福島工高校）3位
平成29年8月3日 福島明成高校



柔道 男子90キロ級 滝沢選手（田村高校）3位
平成29年8月10日 郡山総合体育館



男子4000m団体追い抜き予選(28日決勝2位)
白河実業高校
平成29年7月27日 いわき平競輪場

自転車



自転車 白河実業高校 総合3位

HIGH LIGHT

地域の高校生のいまと未来を支援！

東邦銀行教育・文化財団は、県内で文化・スポーツ活動をする団体の活動への助成を行っています。とりわけ昨年度からは高校生のスポーツ・文化活躍支援助成をしており、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）や全国高等学校総合文化祭に出場する高校生を支援しています。この助成は2020年東京オリンピックが開催されるまで実施し、未来を担うアスリートづくりの一助となるべく、高校生たちの飛躍に大いに期待しています。（写真提供：福島民報社）

公益財団法人 東邦銀行 教育・文化財団
<http://www.tohobankkyoikubunka.jp/>

卓球

女子学校対抗
桜の聖母高校初の16強 続橋選手
平成29年7月30日 郡山総合体育館



*福島の高校生の活躍

第41回全国高等学校総合文化祭

今夏、7月31日～8月4日にかけて宮城県で開催された「第41回全国高等学校総合文化祭」では、本県の高校生が複数の部門で日本一となる活躍を見せてくれました。



みやぎ総文祭開催行事のパレードでは、開催県の宮城・福島・岩手県の3県の高校生が、復興支援の感謝と各県の元気を届けた。本県からも100名余りの高校生がパレードに参加した
[3県の先頭・中央 島美咲さん(新地高校)]



写真部門において、文部科学大臣賞を受賞した戸田泰成君(磐城桜が丘高校)の作品「大切な家族」

この大会は、文化部のインターハイとも呼ばれ、その注目度は回を重ねるごとに高まりをみせています。

本県の高校生文化・芸術活動は、東日本大震災が発生した4ヶ月後に本県で開催された「全国高等学校総合文化祭ふくしま大会」を契機にさらに活性化しました。「震災」や「今の福島」をテーマとした独自の活動によって、高い評価を得ている専門部があるなど、全国からも注目を集めています。

現在、多くの専門部で活躍を広げており、そうした本県高校生の躍動する姿が、復興に向かって歩む本県の一助となればと願っています。

昨年度より、東邦銀行教育・文化財団様より助成をいただき、本県の高校生文化活動はさらなる輝きをみせています。
(福島県高等学校文化連盟)



小倉百人一首かるた部門 読手の部 日本一 本田美奈さん(安積黎明高校)「写真：後列左」安積黎明高校かるた部は、全国高等学校かるた選手権(団体・個人)でも日本一を獲得

TOPICS

当財団の奨学金事業について

1. 奨学生採用状況
平成29年度奨学生25名を採用し、昭和58年から現在まで472名に奨学金を給付いたしました。(平成24年に当財団が(財)東邦育英会を引き継ぎました。)

2. 奨学生の状況
平成29年度奨学生の抱負・目標等

○ 大学で看護学と助産学を学び、資格を取得したい。将来は、福島県内で助産師として働きたい。

○ 数学の楽しさを知りたいと教えることができるよう、大学で学び吸収したい。卒業後は、福島県の教員になり、数学の楽しさをたくさんの人に教えたい。

○ 学業では成績優秀者に認定されるよう努力したい。将来、自動車産業に携わっていきたくて考えており、誰もが安心して使用できる車の部品の開発をしたい。

○ 海外研修や留学で海外のことを知りたいと思っているので、語学を確実にマスターしたい。長いようで短い大学生活を将来的に役立つ有意義なものにしたい。

○ 大学4年間でコンピューターの様々な専門知識や高度な技術を学びたい。将来、地域の医療や産業の発展に役立つような情報システムの開発に携わり、自らが関わったシステムで地域社会に貢献できるようにしたい。

3. 奨学生の募集
平成31年度の新規奨学生の募集は、平成30年5月の予定です。

★お問い合わせは
公益財団法人東邦銀行教育・文化財団
事務局奨学金担当
TEL 024・523・5882

TOPICS

助成金交付先対象団体と活動

◆東邦銀行教育・文化財団の助成金の総額は、平成5年設立以来 11,350 万円となります。(平成29年9月末)

1. 文化・スポーツ活動への助成額は、815 団体 (文化 482、スポーツ 333) に合計 10,080 万円
2. 地域の活性化に貢献する文化活動 (平成26年度創設) への助成額は、16 団体に合計 130 万円
3. 高校生対象の文化・教育研究活動 (平成26年度創設) への助成額は、17 団体に合計 160 万円
4. 高校生のスポーツ・文化活躍支援 (平成28年度創設) への助成金は、2,039 名に合計 980 万円

1. 平成29年度下期 (平成29年10月から平成30年3月までの期間に実施予定)
文化・スポーツ活動 (決定) 団体と活動名 15 団体 (文化 13 団体・スポーツ 2 団体) 助成金額 190 万円

文化部門		
団体名	助成対象活動名	開催日・開催場所
上浜太鼓伝承会 (福島市)	上浜太鼓伝承会設立3周年記念演奏会	H29.10.22(日) 福島県教育会館
コーラス・ベルメール (福島市)	コーラス・ベルメール創立20周年記念演奏会	H29.11.26(日) こむこむわいわいホール
ラ・ラ・ラ (福島市)	ラ・ラ・ラ創立20周年記念コンサート	H29.11.5(日)、H30.3.4(日) こむこむわいわいホール他
ムジカンテン・コア・ふくしま (福島市)	二大レクイエム (モーツァルト・フォーレ) 演奏会	H30.2.25(日) 福島市音楽堂大ホール
福島県歌人会 (福島市)	第65回福島県短歌祭	H29.10.15(日) 福島グリーンパレス
劇団120〇EN (福島市)	第24回公演『幕末アリス』	H30.2.4(日) 福島テルサFTホール
川柳能因会 (白河市)	川柳能因会創立90周年川柳大会 入選作品集の発刊	発刊予定H29.10.20(金)
喜多方市松の木女声コーラス (喜多方市)	つなごう歌の輪・心の和・共生の絆 コンサート	H29.10.7(土) 喜多方プラザ文化センター大ホール
相馬合唱団エスポワール (相馬郡新地町)	相馬合唱団エスポワール第2回演奏会	H29.12.3(日) 相馬市民会館大ホール
南相馬市原町俳句連盟 (南相馬市)	年間合同句集「ひばり」第33号出版	発刊予定 H29.10.2(月)
いわきハルモニオオルケスタ (いわき市)	いわきハルモニオオルケスタ第4回定期演奏会	H30.2.11(日) いわき市文化センター大ホール
優しく歌おうコスモスの会 (いわき市)	石河清 メモリアルコンサート	H30.1.14(日) いわき市文化センター
Musik Zimmer (いわき市)	第13回 Musik Zimmer 芸術コンサート	H29.10.8(日) いわき市文化センター

スポーツ部門		
団体名	助成対象活動名	開催日・開催場所
ファンキーモンキードリームス (福島市)	2017 ファンキーモンキードリームス ティーボール大会	H.29.10.9(月) 福島市立南向台小学校
行健ミニバスケットボールスポーツ少年団 (郡山市)	行健ミニバスケットボールスポーツ少年団 創立20周年記念交流大会	H29.10.8(日)、10.9(月) 郡山ユラックス熱海他

2. 地域の活性化に貢献する文化活動 (決定) 団体と活動名 平成29年度下期1団体、助成金額 10万円

団体名	助成対象活動の内容	活動場所
中村若連 (蔵島神社「つつこ引き祭り」)	絆纏・下帯姿の若衆が「つつこ引き祭り」を継承	伊達市保原町

3. 高校生対象の文化・教育研究活動 (決定) 団体と活動名 平成29年度下期3団体、助成金額 30万円

団体名	助成対象活動の内容	活動場所
県立福島高等学校 スーパーサイエンス部放射線班	震災後の放射線の状況を調査、福島の復興についての学習	同校物理実験室
県立堀工業高等学校 和太鼓部	地元の活性化や復興支援活動を趣旨として活動	東白川郡内、近隣の市町村の被災地
県立会津学鳳中学校・高等学校 美術部	「被災された方たちの古里への思い出」を作品に制作	大熊町復興公営住宅他

4. 高校生のスポーツ・文化活躍支援助成 平成29年度支援対象生徒数と助成金額

大会名	出場選手・参加生徒	対象校	助成額
全国高等学校総合体育大会 (夏)	667名	63校	333.5万円
全国高等学校定時制通信制大会	95名	8校	47.5万円
全国高等学校総合文化祭	377名	35校	149万円
計	1,139名	106校	530万円

※この助成は2020年東京オリンピックが開催されるまでの5年間実施いたします。



原郷のほほえみ
原郷のこけし群 西田記念館
福島市荒井字横家 3-183 (アンナガーデン)
TEL 024-593-0639 / FAX 024-593-0811
http://nishidakinakan.or.jp/

企画展報告 ■平成29年4月～6月 「土湯」下の松屋」と 「温海」こけし

企画展報告 ■平成29年4月～6月

画展では、下の松屋のこけしと関連資料約315点を紹介しました。

●阿部治助

阿部治助は明治18年土湯に生まれ、父のもと木地修行を行いました。しかし、木地業が不況になってくると石工となり、河川工事や堤防工事の傍らこけしを作りしました。治助は口数が少ない職人気質で、こけしは素早く無造作に作り趣味道楽がない仕事一筋の生活だったといえます。作品が評価されたのは晩年になってからでしたが、昭和17年発行の『古計志加々美』では「現在の土湯こけし中最も素朴優雅なもの」と絶賛されました。現在、治助のこけしは曾孫の国敏に受け継がれています。

た。しかし、木地業が不況になってくると治助と共に石工となり、こけしはその合間に作りました。新次郎のこけしは、おしゃれできれいな性格を反映してか仕上げがきれいで描彩も明るく、澄んだ瞳が美しいすがすがしさを感じさせる作品と評されます。新次郎の伝統は息子の一郎や弟子の西山徳二に受け継がれ、現在は徳二の親戚の渡辺鉄男がその型を継承しています。



阿部治助

土湯「下の松屋」は古くからこけし作りの伝統がある土湯こけしの名門で、近年はその伝統を受け継ぐ工人がコンクールで数々の賞を受賞し、新しい伝統も試みるなど現在土湯系の中でも注目の系列となっています。土湯の下の松屋のこけしは阿部治助(1885・1952)以降の作品から確認されており、治助や弟の新次郎(1893・1957)、従兄弟の小幡福松(1898・1966)の系譜により様々な作風に分かれて受け継がれています。

また、山形県の温海こけしも創始者阿部常松(1866・1926)は下の松屋出身でした。しかしその作品は土湯こけしとは離れた作風となっており、独特の愛嬌ある表情は近年のこけしブームで高い人気を誇っています。今回の企

●阿部新次郎

治助の弟新次郎は明治26年土湯に生まれ、父のもと木地修行を行いました。



阿部新次郎

●小幡福松

治助の従兄弟小幡福松は明治31年福島市置賜町に生まれ、父のもと木地修行を行いました。昭和初期の小幡家は木地工場と店があり、店にはコマやけん玉などの玩具、盆や茶筒などの木地製品が置いてありました。こけしは注文があったときか仕事の余暇に作ったため、製作数は年間100〜200本程度でした。小幡家は一家で木地業を営んでいたため、福松名義のこけしは木地・描彩が家族合作によるものが多く、関わった人の時期により作風に変化が見られます。



小幡福松

阿部常松は明治元年土湯に生まれ、兄熊治郎(治助の父)から木地挽きを学びました。しかし、明治21年になると土湯を離れ青根の佐藤茂吉の弟子となり、その後、蔵王、山形、湯野浜など各地を転々とし、温海温泉に落ち着きました。常松のこけしは各地のこけしの影響を受けているため、土湯とは離れた作風となっています。現在、温海こけしは孫の進矢へと受け継がれ、こけし以外にも様々な木地玩具が作られています。



温海の木地玩具

●阿部常松

かつてこけし作りをする木地屋では、女性は一家を支える陰の存在でしたが、昭和中期より少しずつ女性工人として活躍する人が出てくるようになり、現在では表舞台で活躍する人が増えてきています。今回の企画展では、女性工人の作品を時代による活躍の変化と共に紹介しました。

開催企画展 〈7～11月〉

女性工人と時代の移ろい

かつてこけし作りをする木地屋では、女性は一家を支える陰の存在でしたが、昭和中期より少しずつ女性工人として活躍する人が出てくるようになり、現在では表舞台で活躍する人が増えてきています。今回の企画展では、女性工人の作品を時代による活躍の変化と共に紹介しました。

*戦前からこけし作りに関わった女性たち

木地屋の女房は昔からよく稼ぐと言われており、かつては木地屋の仕事の相当量を担っていました。弥治郎(宮城県白石市)の場合は、材木の運搬、木取りの手伝い、一人挽きロクロの綱取り、木地製品の宿まり販売などが女性の仕事で、これ以外に炊事・洗濯などの家事を行っていました。こけし作りも一家の流れ作業として女性が描彩を行うことは珍しくなく、かつて描彩をしたと言われる人は多く存在しました。しかし、その存在は表に出ることはなく、戦前のこけしで女性が描いた作品として知られるものは非常に少ないです。



戦前の女性工人の作品

*戦後の女性工人の台頭

昭和中期のこけしブームが訪れると、愛好家のすすめなどでこけし作りをする工人の妻や娘が現れ始めました。しかし、原木を丸ノコで木取りし、ロクロにかけて木地挽きをする仕事は女性にとって重労働だったため、描彩のみで木地挽きは行わなかったり、製作期間や製作数が限られたりという場合が多かったです。このような中、描彩が高く評価されたり、木地挽きも学んで本格的に工人として活躍したりする人も少しずつ現れてきました。井上ゆき子、鎌田うめ子、佐藤きくなどは木地描彩共に行う女性工人の先駆者として人気が高

く、各地のこけしコンクールでも数々の賞に輝いています。

*現在の女性工人の活躍

現在、女性工人として本格的に活躍している人の数は増え、各地のこけしイベントでもその姿は多く見られるようになってきました。特に近年のこけしブームは愛好家も女性が多く、同じ女性視点で作られた作品の中には人気が高いものもあります。現在の女性工人の多くは、身近な親や夫がこけし工人であることをきっかけに始めた人が多いですが、最近では地域の後継者育成事業の弟子入りで修行を始め、活躍している人もいます。



現在の女性工人の作品

東邦銀行教育・文化財団では、平成30年4月から9月までの期間中に活動計画のある「文化・スポーツ団体」を対象に、平成29年11月1日～12月30日まで助成申請の受付を行う予定です。

詳しくは当財団のホームページの「助成事業 | 文化・スポーツ活動団体への支援」をご覧ください。事務局 ☎(024)523-5882 までご照会ください。

東邦銀行教育・文化財団が、平成28年度に助成を行った文化・スポーツ団体の活動から、今回は福島市の「福島木彫の会」と、相馬市の「相馬市インディアカ協会」、および、平成29年度に助成を行う「地域の活性化に貢献する文化活動」で伊達市の「中村若連」(厳島神社「つつこ引き祭り」)、「高校生対象の文化・教育研究活動」で「会津学鳳中学校・高等学校 美術部」の活動をご紹介します



インディアカは羽のついたシャトルコック状のボールを、ネットをはさんで相対した2チームが互いに手で打ち合う団体競技で、ルールはバレーボールによく似ています。

震災前から「浜通りインディアカ大会」として開催されていましたが、震災後は、復興を願い「負けないぞ相馬」と銘打ち、インディアカを通じて、震災により希薄になりがちな地域や世代間の交流を盛んにしたいと、継続して開催されています。

インディアカって何？

文化・スポーツ活動
平成28年度下期
助成団体
「スポーツ部門」

相馬市インディアカ協会(相馬市)
まけないぞ相馬
第6回インディアカ大会

平成29年1月22日(日) スポーツアリーナそつま



当団体は、インディアカを通じ、メンバー相互の親睦を深める。また、健康増進、ケガの予防、インディアカ技術を向上させることを目的とする。平成2年4月設立、現団員数23名。

午前中に予選リーグが行われ、午後は予選順位別に決勝リーグ戦が行われ、白熱した試合が続ぎ、選手達は真剣にプレーしていました。試合結果の最終順位は得失点差という僅差が多かったです。参加した方は「楽しかった。また、来年もお願いします」と笑顔で応えてくれました。

大会が終わって会員の皆さんは「開催してよかった。来年も頑張ろうという気持ちが出てきました」応援に来てくれた友人などは、「思ったよりもハードだけど、見ていて面白い」宮崎会長からは「けが人もなく、無事閉会できたことが何よりもうれしい」と話してくれました。

文化・スポーツ活動
平成28年度下期
助成団体
「文化部門」

福島木彫の会(福島市)
福島木彫の会 第32回木彫展

平成28年11月9日(水)～11月13日(日) コッセふくしま3F企画展示室

木の持つ温かみ

昭和60年に始まり、1回も休むことなく今年で32回を迎えました。木が持つ温かき、やさしさ、風合いなどを木彫りを通して表現し、技術レベルを向上させた結果を展示会で皆さんに楽しんでいただくことを目的に開催されました。

会場は芸術の秋の一つとして25名が作成した158作品が展示されました。作品は小さな物はアクセサリやお盆など、大きな物になるとテーブルや椅子など家具の作品まで及んでおり、デザインから、カット、彫り、色付けまで行っています。完成までには何工程も重ね、数カ月も要し、一つの作品に仕上げられています。

出展者の中には日展へ出展している方もおりレベルの高さを感じられ、高橋会長の「宙に浮かぶ都市」は来場者の関心を集めていました。

小さな物の作品は女性の人気を集めており、来場者からは「素晴らしい作品で来年も観にきたいです」との感想がありました。



当団体は、木彫を研究し、木彫の芸術技術を高めると共に会員相互の親睦を図ることを目的に設立。木彫教室や作品展の開催、県内外の木彫教室の方と交流を図ってきている。昭和60年10月設立、現会員数27名。



高橋会長は「芸術の秋のイベントの一つとして、来場者の皆様に楽しんでいただけたと思います」と語ってくれました。

「地域の活性化に貢献する文化活動」平成29年度助成団体

中村若連(厳島神社「つつこ引き祭り」)(伊達市)
商売繁盛 五穀豊穡 無病息災



「つつこ引き祭り」の由来は、江戸時中期に大飢饉があり、当時の領主が厳島神社の境内に領民を集め、種もみを分け与えたとする豊作となり、領主の善政に感謝し、神前に初穂を捧げ豊作を祝ったという事です。

現在は毎年3月に絆纏に下帯姿の若衆が寒風の中、「商売繁盛・五穀豊穡・無病息災」を祈る勇壮な祭りとして受け継がれています。

つつこ(直径約1.5m、長さ約3m、重さ約800kg)の大俵は、太縄5本で3カ所が固く結ばれています。



つつこの中には、ふかしたもち米が入れられており、激しくつつこを引き合ううちに餅になり、祭りの最後には、厳島神社の境内にてつつこが解体され、中の餅が配られます。

須賀会長は「会員数は年々減少していますが、若連活動という人間臭い付き合いは、人間関係が希薄になりがちな時代に、大変貴重だと思えます。これから地域の活性化につながるように、一丸となって取り組んでまいります」と話していました。

また「つつこ引き祭り」実行委員長の小野さんは「地元の42歳厄年の男子が中心となる祭りの大俵や開催当日の準備には余念がありません。まだ寒い時期での事前準備は大変ですが、無事祭りが開催されることを想うと楽しみです」と話してくれました。

会津学鳳中学校・高校 美術部(会津若松市)
懐かしい古里が甦る

「高校生対象の文化・教育研究活動」平成29年度助成団体

被災者の方たちの思い出写真を、中学・高校の美術部員たちが絵画アートと伝統的工芸品「ヒロロ織り」を組み合わせた作品を制作します。永く古里への愛情と地元・福島のやさしさを感じていただき、生活の中で愛用していただけるような作品に仕上げ、贈呈する活動を行っています。

美術部員たちが作品制作のため復興公営住宅を訪問し、古里の思い出写真(家族、住まい、景色等)を見せていただき、交流を重ねてそこに込められた深い思いについて伺います。特に思い出深い写真を1枚選んでいただいております。それを部員たちの手により小さな思い出の絵画として仕上げ、出来上がった作品を住民の方たちに直接届けて交流を深めます。



被災された方たちは「生徒さんに作品を作るため来ていただき、懐かしい古里が甦ったことに感謝します。学生の方といろんな話ができてとても楽しい時間を過ごすことができました」とのこと。また部員たちは「写真を語って聞いたことを作品にうまく表現してみたいです。被災者の方に喜んでもらえることが楽しみです。作品を作る前に被災者の方と沢山の話ができて、交流を深めることができました」。顧問の丸山先生からは「作品贈呈に留まらず、聞き取り活動を通じて心の交流を目指しています。生徒たちに福島伝統文化の価値と誇りを持つしてほしい」との声をいただきました。

平成 29 年度県内高校生のスポーツ・文化活動活躍支援助成

学校法人松韻学園 福島高等学校 相撲部 (福島市)



2017 南東北インターハイ相撲大会決勝トーナメント進出。前列右から佐藤さん、藤原さん、日野さん。選手後列右から藤崎さん、大越さん。後列右端が二瓶先生



学校の相撲場でぶつかり稽古に励む主将の佐藤さん(左)とコーチの斎藤健さん

3年連続でインターハイ決勝トーナメントへと導く

むせかえるような熱気の中、激しいぶつかり稽古の音が響く。ここは、2017 南東北インターハイ相撲大会で予選を勝ち抜き、3年連続で決勝トーナメントに進出した、学校法人松韻学園 福島高等学校(以下、学福)相撲部の相撲場だ。佐藤優哉さん(主将)、日野直人さん、藤原湧太さんの3年生に加え、藤崎大輔さん(2年)、大越晴斗さん(1年)の5人で団体戦を戦った。ベスト8が目標だったが、決勝トーナメントで一回戦敗退、悲願はならなかった。今年の新チームは3月、新人の全国大会で大敗を喫し、そこから本格的に始動。県大会優勝までは顧問の二瓶頭人先生がチームを引っ張ったが、そこから先は徐々に主将の佐藤さんが中心となつてチームを引っ張り、インターハイ出場を果たした。「生徒たちは自覚を持つて、目標に向かって稽古してくれました」と二瓶先生は振り返る。

東邦銀行総合運動部所属で母校の生徒たちとともに強くになりたい

そのチームづくりには、東邦銀行総合運動部の斎藤健さんが一役買っている。斎藤さんは県大会10連覇が始まっ



斎藤健さんは、東邦銀行総合運動部に所属し、社会人の全国大会などに出場するかたわら、母校の学福相撲部で恩師の二瓶頭人先生とともに生徒を指導し、毎年チームをインターハイ決勝トーナメントへと導いている

た年に学福に入学、1年生からレギュラーとして活躍。3年前に東邦銀行に入行し、その年から母校でコーチとして生徒たちを指導している。斎藤さんは「いまの3年生3人が入ってきた時、当初はまさかここまで強くなるとは思いませんでした」と振り返り、目を細める。先生は「体の大きい健に生徒たちが胸を借りて稽古できるのは、力をつけてもらえるので大きいと感じています」「それと、健はすごく優しい性格をしているので、僕の知らないところで生徒の相談に乗ってくれて、実は心のケアもしてくれているんです」と感謝の思いを語る。また、大会中の選手へのアドバイスも説得力があり、心強い助言が得られるという。選手たちは、二瓶先生の指導方針に沿つて、斎藤コーチのサポートのもと目標に向かい、毎日熱のこもった稽古を続けている。斎藤さんは「東邦銀行入行と同時に総合運動部をつくってもらって、こうして母校で稽古ができて、子どもたちに指導もできている。すごく感謝していますし、それに対して恩返しするのは当たり前

前だと思っています。これからはますます強くしていきたい」と意欲を語る。こうした指導のほか、いままも社会人の全国大会に出場しており、学福での稽古が、自分の練習にもなっているという。今後も生徒との稽古の相乗効果でお互いに強くなっていければ、と考えている。

真つ向勝負で力をつける! 今後とも全国大会で戦えるチームづくりを

生徒たちが相撲を通して学んだことを、将来どう活かしてほしいか、という問いに、二瓶先生は「相撲に対する臨む姿勢として、『まずは真つ向勝負をする。ズルをして小手先、目先の勝ちにこだわらない』ということを日頃から強く言っています。まずは真つ直ぐぶつかつて、次どうしようか、とやつていくスタンスが大事です。社会に出てからもいろいろな困難があると思うが、立ち向かつていくような気持ちでいろいろなことに挑戦してほしい」と熱く語る。斎藤さんは、今後の指導について「二瓶先生の指導方針に沿つて、先生と一緒に、今後も新入生たちを今年の3年生のように、本当に弱い段階で入ってきたとしても全国で戦えるように力をつけてあげたい」と抱負を語る。主将の佐藤さんも「国体は全国大会のベスト8に挑戦するラストチャンスです。チーム一丸となつて頑張ります」と意欲的だ。これからも学福は「ベスト8の壁」突破に向け、そんな新しい強いチームづくりを目指していく。

編集後記

この夏高校生最大のスポーツ・文化の祭典であるインターハイ、総合文化祭が南東北3県で開催され、本紙紹介の「かるた部門」、「写真部門」で日本一になる等素晴らしい活躍を見せてくれた。

その他海外高校生との交流を通じ福島の現状、課題は何かを確認し海外に発信する活動や未だ避難を余儀なくされている方々との太鼓や美術活動を通じた交流など、様々な形で復興に向けた活動を行っています。当財団は、そのような県内高校生の活動を積極的に応援しています。(KK)

かがやく① 平成 29 年 10 月 10 日発行

発行所 公益財団法人 東邦銀行 教育・文化財団
http://www.tohobankkyoikubunka.jp/
〒960-8041 福島市大町 4-4
電話 024-523-5882 FAX 024-523-3265

発行人 鹿野 幸一 ©東邦銀行 教育・文化財団
制作 株式会社 進和クリエイティブセンター
印刷 株式会社 日進堂印刷所